

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第4区分
 【発行日】平成25年1月24日(2013.1.24)

【公表番号】特表2012-502404(P2012-502404A)
 【公表日】平成24年1月26日(2012.1.26)
 【年通号数】公開・登録公報2012-004
 【出願番号】特願2011-526562(P2011-526562)
 【国際特許分類】

G 1 1 B 7/244 (2006.01)

G 1 1 B 7/24035 (2013.01)

G 1 1 B 7/13 (2012.01)

【F I】

G 1 1 B 7/24 5 1 6

G 1 1 B 7/24 5 2 2 A

G 1 1 B 7/13

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年11月22日(2012.11.22)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

データ点のトラックの形式で記録情報を含むデータ保存媒体であって、各データ点の色が、少なくとも異なる3色から選択され、該記録情報が、発色性組成物を含む基材上に配置され、該発色性組成物が、光源による照射を受けると、少なくとも異なる3色に変化しやすい発色剤を含み、該発色剤が、ロイコ染料またはジアセチレンまたはカルバゾールであるデータ保存媒体。

【請求項2】

前記データ点が、複数色および/または色の明暗を含む、請求項1に記載のデータ保存媒体。

【請求項3】

前記発色性組成物が、N I R吸収成分をさらに含む、請求項1または2に記載のデータ保存媒体。

【請求項4】

前記N I R吸収成分が、銅(I I)塩、還元金属または混合金属酸化物、導電性ポリマーまたはN I R染料/色素である、請求項3に記載のデータ保存媒体。

【請求項5】

前記発色剤が、ジアセチレンである、請求項1～4のいずれかに記載のデータ保存媒体。

【請求項6】

前記ジアセチレンが、10,12-ペンタコサジイン酸または10,12-ドコサジイン酸(docosadiynoic acid)またはカルボン酸基がアミドに官能化されたこれらの誘導体である、請求項5に記載のデータ保存媒体。

【請求項7】

前記誘導体が、プロパルギルアミド誘導体である、請求項6に記載のデータ保存媒体。

【請求項8】

前記発色性組成物が、結合剤を含む基材表面上にコートされ、または該基材を形成する材料中に組み込まれ、または該基材を含むラミネート構築体の一部である、請求項 1 ~ 7 のいずれかに記載のデータ保存媒体。

【請求項 9】

C D または D V D である、請求項 1 ~ 8 のいずれかに記載のデータ保存媒体。

【請求項 10】

請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載のデータ保存媒体を形成する方法であって、発色性基材上に、記録情報に対応する光源を指し向けるステップを含み、各点の色が、少なくとも異なる 3 色から選択されているデータ点のトラックが生成されるように、該レーザー光に対する該基材の位置が変わる方法。

【請求項 11】

前記光源が、120 nm ~ 20 μm 領域の波長を有する、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

前記光源が可変ビームプロファイルを有し、かつ複数色および/または色の明暗を含むそれぞれのデータ点を生成する、請求項 11 に記載の方法。

【請求項 13】

請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載のデータ保存媒体を読み取る方法であって、該媒体上にスキニングレーザーを照射するステップ、および色検出器アレイを使用して反射された照射を検出するステップを含む方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

本発明の第 1 態様は、データ点のトラックの形式で記録情報を含むデータ保存媒体であって、各データ点の色が、少なくとも異なる 3 色から選択され、該記録情報が、発色性組成物を含む基材上に配置され、該発色性組成物が、レーザー照射を受けると、少なくとも異なる 3 色に変化しやすい発色剤を含み、該発色剤が、ロイコ染料またはジアセチレンまたはカルバゾールであるデータ保存媒体である。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0049

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0049】

R - C C - C C - R '

[式中、R および/または R ' は C O X 基を含み、その際、X は、- N H Y、- O Y、- S Y であり、その場合、Y は H か、または少なくとも 1 個の炭素原子を含む任意の基である]

さらに特に好ましいものは、カルボン酸基がアミド、エステルまたはチオエステルに官能化された誘導体である。これらは、ジアセチレンカルボン酸と、塩化オキサリルなどの塩素化剤とを反応させ、次いで、そのジアセチレン酸塩化物を、アミン、アルコールまたはチオールなどの求核性化合物と反応させることによって容易に製造することができる。特に好ましいジアセチレンカルボン酸化合物は、10, 12 - ドコサジン二酸、およびアミド、エステル、チオエステルなど、その誘導体である。より特に好ましい 10, 12 - ドコサジン二酸誘導体はアミドである。さらに特に好ましい 10, 12 - ドコサジン二酸アミド誘導体は、少なくとも 1 個の、好ましくは両方のカルボン酸基が、以下に示すようなプロパルギルアミドに転換されているプロパルギルアミドである。